

令和5年度 議会報告会 報告書

(1)班 班長(幸松 孝太郎)

開催日時	令和5年12月9日(土) 19時30分～20時30分	会場	赤目市民センター
相手方名	赤目まちづくり委員会	参加人数	27人
出席議員	福田博行 吉住美智子 幸松孝太郎 山下登 足立淑絵 藤川美広		
	質問・意見	懇談会等での返答	対応
1	<p>予算を投じて赤目小町の開発を行うのは結構なことだが、地元住民への説明がないため、意見が一致せず駐車場の取り合いなど弊害が生じている。 地元住民の理解を得る活動を先にするべきではないか。</p>	<p>1億7千万円弱の予算(赤目小町事業費)は事業者支援である。旅館3軒、土産物屋7軒の整備開発に活用し、令和6年2月には9軒の整備が完了する予定。 ご指摘いただき大変驚いている。議会としても地元住民とともに進めることが重要であると考えている。 地元住民を対象にした説明会の実施を行政に要望する。</p>	<p>■ 行政側に伝える</p>
2	<p>赤目滝を中心に考えられているが、観光客を迎える玄関口となる赤目口駅には観光案内所もコンビニもない。 赤目滝を町全体の財産として考え、赤目小町等の開発と赤目駅口の整備は同時に進めるべきではないか。</p>	<p>いただいたご意見を受け止め、行政に伝える。 地元住民を対象にした説明会の実施を行政に要望する。</p>	<p>■ 行政側に伝える</p>
3	<p>観光入込客数が1/3まで減少した原因等は分析しているのか。</p>	<p>市はこれまで子育て世代をターゲットにしていたが、今後は東京都在住で25歳～34歳までの経済的余裕がある独身女性をターゲットにするとしている。 ツアーパッケージや大型バスでの観光が減少し、個人旅行が増加した。 大阪や名古屋からのアクセスが良すぎて日帰り客が多い。美しい自然景観が強みだが天候に左右されやすい。 忍者・滝参りの歴史が強みだが新しい客層が獲得できていない。といったことが現状の課題として挙げられている。</p>	<p>■ 当日の返答どおり</p>
4	<p>バリアフリー化を進めて障害者や高齢者を含めた全ての年齢層を対象に集客するならもっと大きな開発が必要ではないか。 例:ロープウェイ設置など</p>	<p>赤目滝を名張市全体の財産として考え、赤目町を中心に名張市内で観光・宿泊してもらえるような一体化した観光開発が必要であると考えている。 観光客が増加した他市の事例を参考にしながら、名張市をアピールする方法を議会でも検討する。</p>	<p>■ 行政側に伝える ■ 委員会等で対応を協議</p>

	質問・意見	懇談会等での返答	対応
5	赤目滝周辺を開発して地元を盛り上げていくためには、観光客だけではなく地元住民が家族を連れて利用できるようにしてほしい。 平日はシャッターがしまっている。 駐車料金が高いなどの問題がある。	今回の予算措置は事業者支援だが、整備・開発を契機に地元の発展に繋がってほしいと考えている。 地域全体で広く繋がりを持っていただきたい。 住民パスポートなどがあればよいと考える。 地元住民のアイデアをどんどん市に提言していただきたい。	■ 当日の返答どおり
6	県道赤目滝線の整備を進めるならば本年が最後のチャンスだと聞いている。 1ヶ月程前に県と市から説明があった。地権者や地元住民との調整を進めて是非実現したいと考えているので議会からも後押ししてほしい。	県道整備の話は20年程前に持ち上がったが、現在も未整備であることが気に掛かっていた。 議会としても後押しをしていく。	■ 当日の返答どおり
7	イオン津南で販売した「ぶどう大福」や「つや玉ぶどうカン」などが大盛況であったと聞いているが、一度限りで終了している。 赤目滝などで販売できるように議会からも後押ししてほしい。	持続的に原材料の確保や製造が行えるかどうかなど検討課題はあると考えるが、期間限定であっても実施できるよう行政に要望する。	■ 行政側に伝える